



表態文字としてのひらがな

野口尚子
印刷の余白Lab.

ちんちんは

なぜちんちんよ書けるのか

安

機能面：筆と紙 筆記速度
精神面：外→内 公→私

書き崩す＝動作を省略

あ

省略された動作の軌跡

省略された動作の軌跡

が、連綿とつながることで、

ものごとの状態や動きを表現・内包できる
(無意識のうちにしている) んじゃないだろうか？

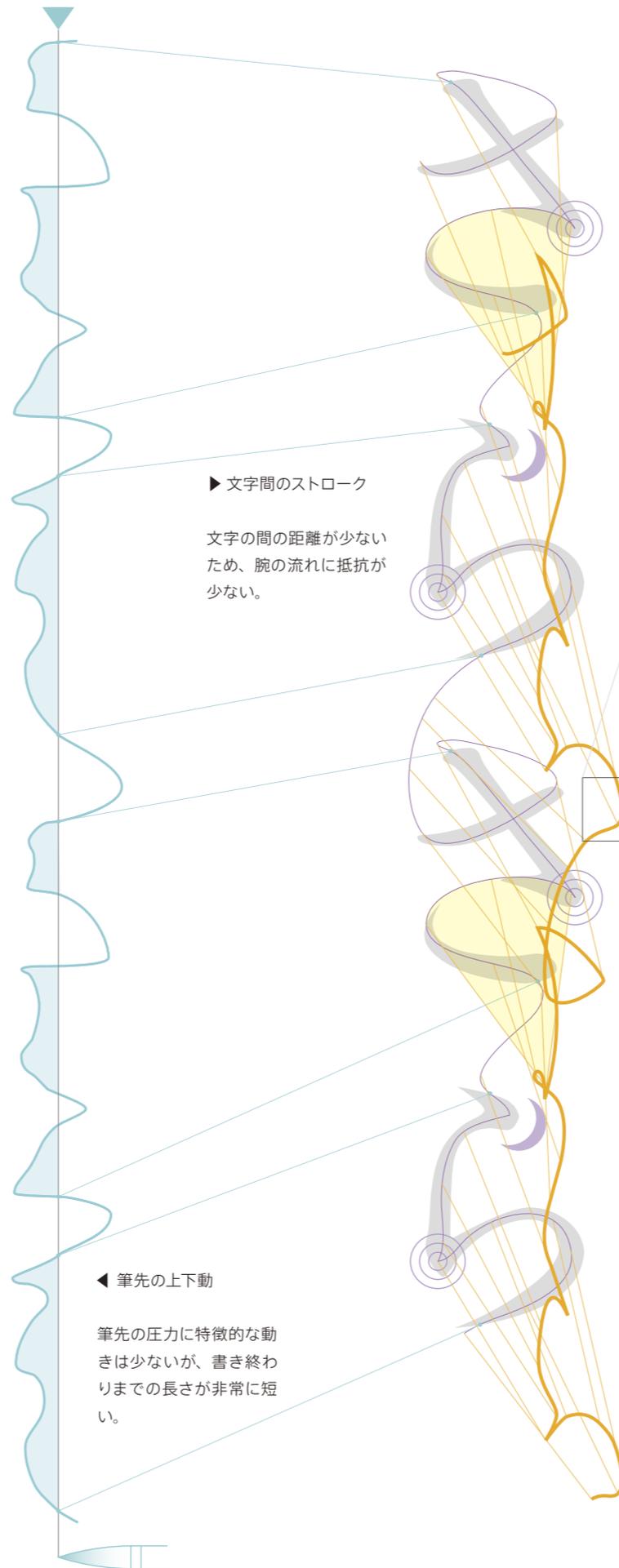


表“態”文字

モロモロ

モロモロ

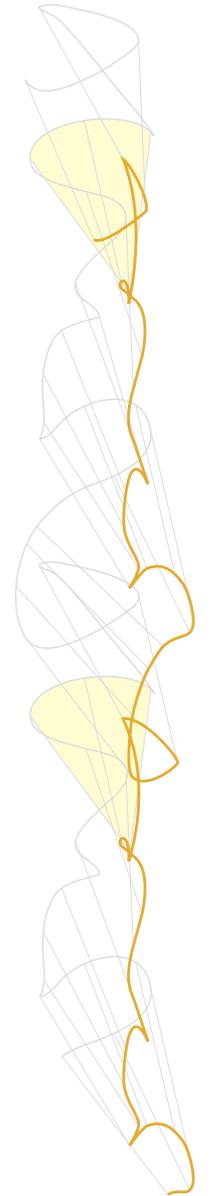
- ◎ 切り返し
- ループ
- ☾ 浅く入り浅く抜ける



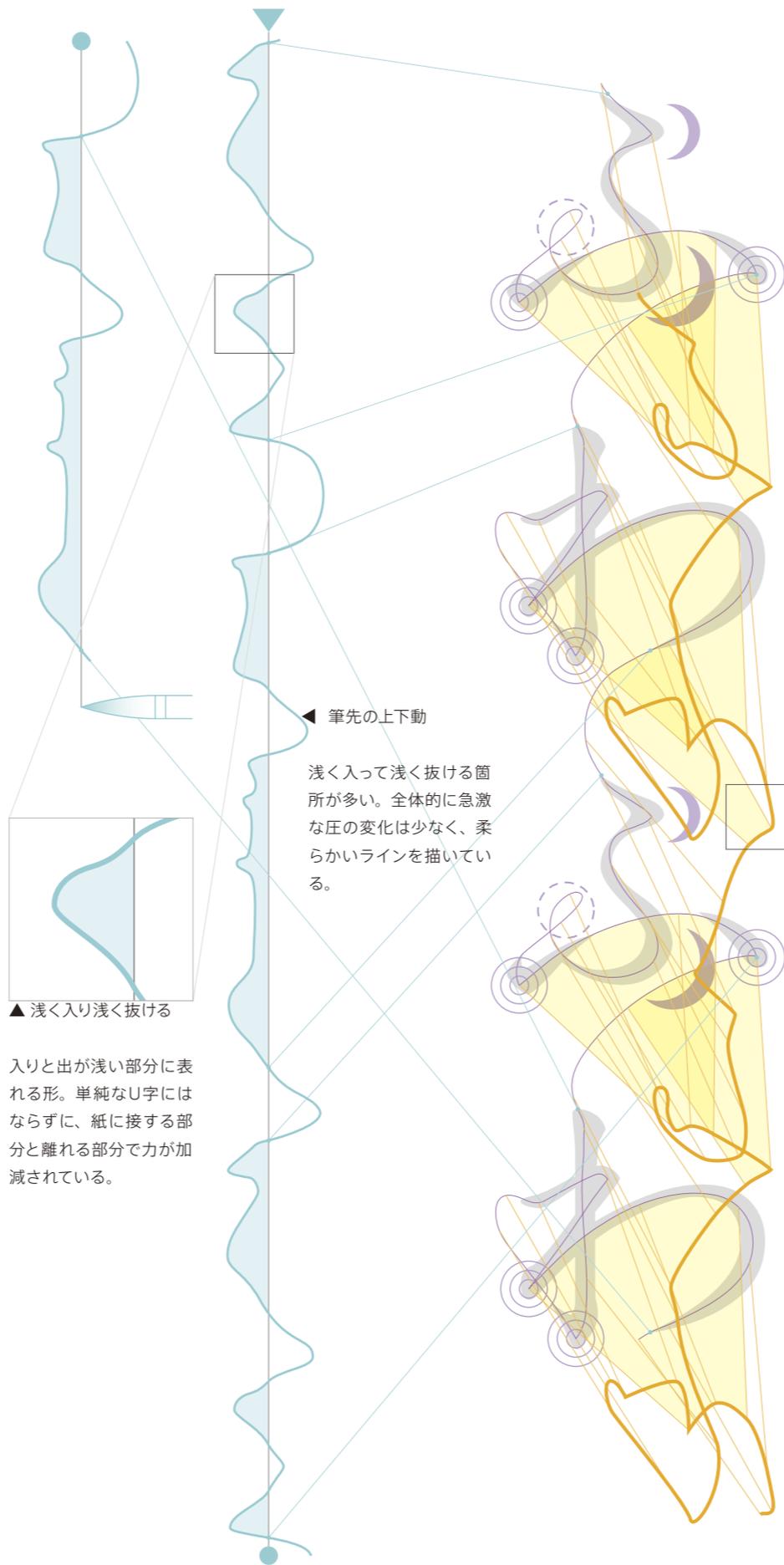
▼ 指先の流れ



▼ 肘の流れ



- ◎ 切り返し
- (点線) ループ
- ☾ 浅く入り浅く抜ける



▲ 浅く入り浅く抜ける

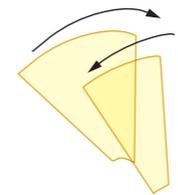
入りと出が浅い部分に表れる形。単純なU字にはならず、紙に接する部分と離れる部分で力が加減されている。

◀ 筆先の上下動

浅く入り浅く抜ける箇所が多い。全体的に急激な圧の変化は少なく、柔らかいラインを描いている。

◀ カーブ後半のコーナー → R-3.1

◀ アーチの折り返し

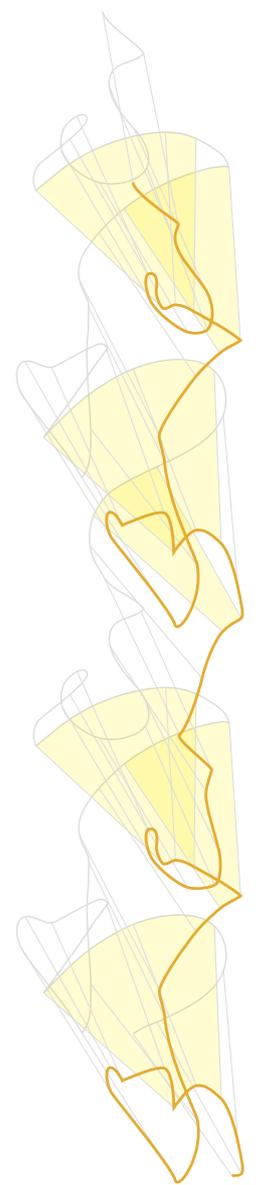


肘を支点としたアーチ運動が多いのがふわふわの特徴だが、「ふ」にはさらにアーチの折り返しが見られる。

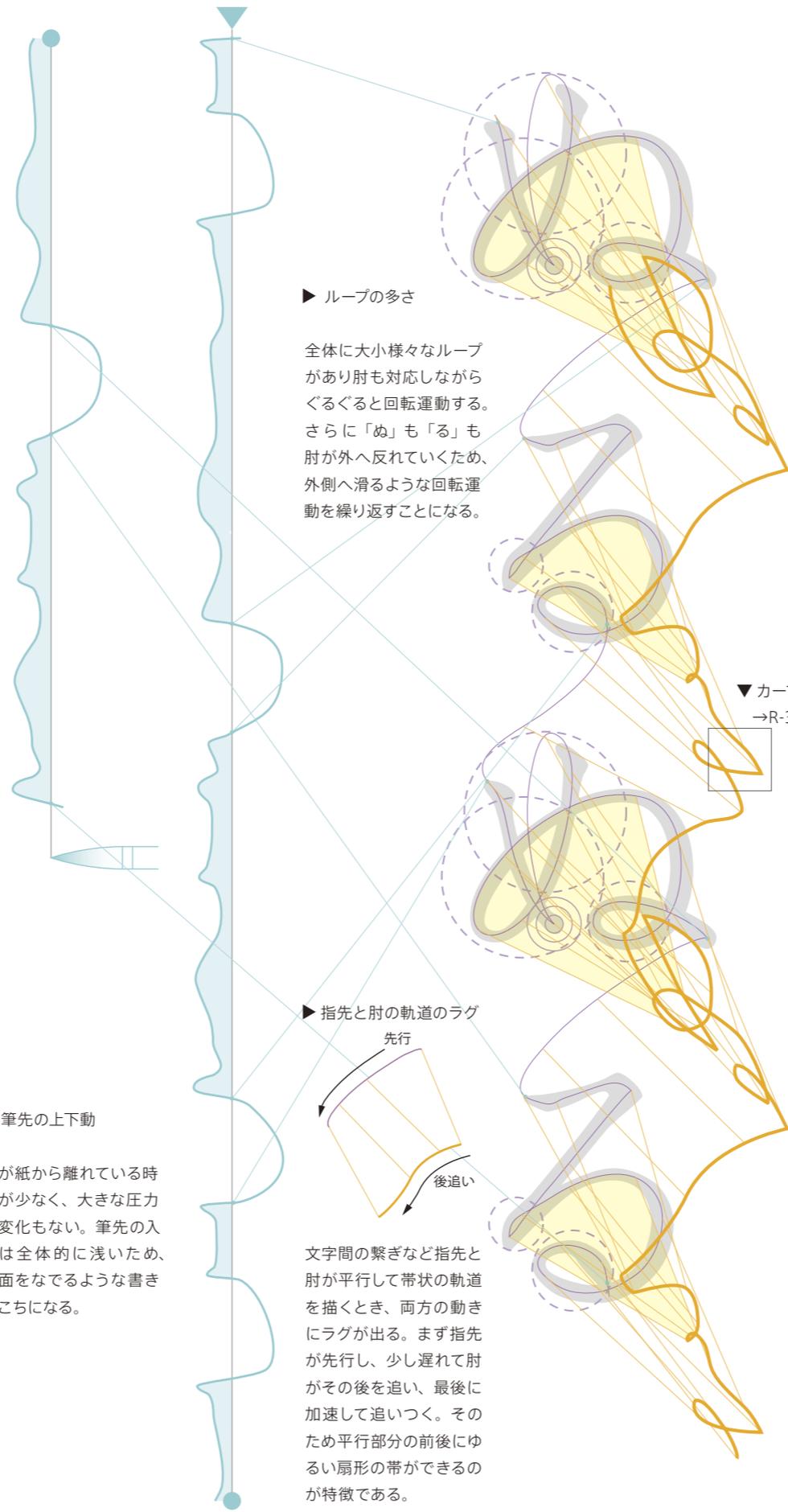
▼ 指先の流れ



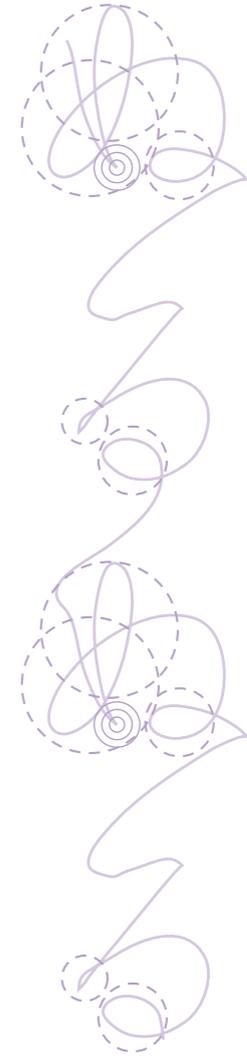
▼ 肘の流れ



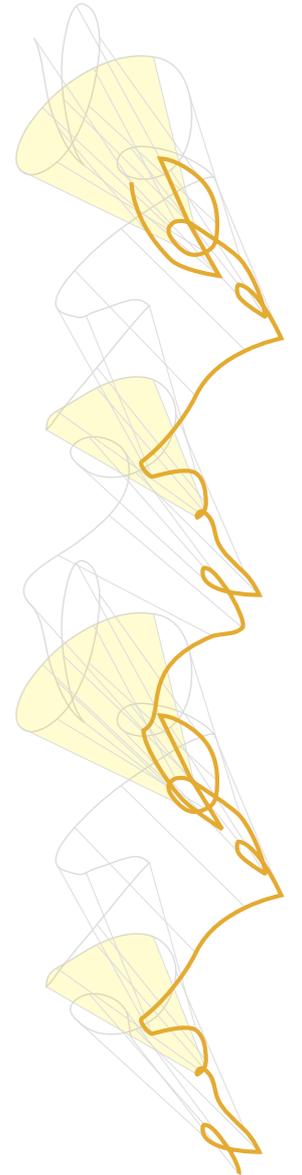
- ◎ くり返し
- ループ
- ☾ 浅く入り浅く抜ける



▼ 指先の流れ



▼ 肘の流れ



- ◎ くり返し
- ループ
- ☾ 浅く入り浅く抜ける

▶ 急角度のくり返し

重力方向へ反するくり返し、それもバウンドしたように急角度のものがいくつもある。これが進行方向への流れを分断し、一本の流れではなく部分部分を際立たせている。

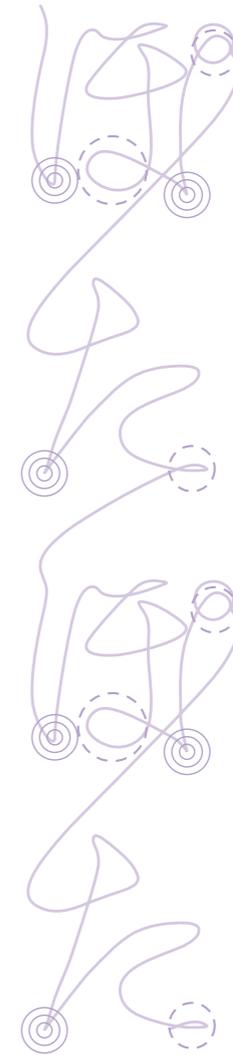
◀ 面に分散する筆致

ひとつひとつの筆画が短く面全体に分散しており、指先があちこち移動する。また、流れを繋ぐループやアーチも少ないため、肘の動きも指先に連動して分散する。

◀ 筆先の上下動

書き終わりまでの長さもさることながら、さらに特徴的なのが筆の上下動の多さと細かさである。腕を水平面で分散的に動かすだけでなく、ピートを刻むように垂直方向でも細かくリズムをとっている。なだらかさはあまりなく、筆先は真上から落ちるように紙へ降りてくる。

▼ 指先の流れ



▼ 肘の流れ

